

令和8年度 調布市立第八中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像、教員像、児童・生徒像	
スローガン『心理的安全性が育む Agency 地域と共に未来を拓く』	
<p>誰もが自分の意見をのびのびと言える環境を実現し、その基盤の上に Agency（自分で考え、自分で決め、社会変革に向けて自分が動き出す）を高める取組を行う。また、地域資源を有効活用し、生徒たちの社会性を育むと同時に、学校を核とした地域社会の活性化を実現する。</p>	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で素朴さを感じさせる生徒が多く、生活面での乱れはなく、学校生活は落ち着いている。学区外からの生徒が多く、全体の3分の1を占めている。また、通級利用生徒が全体の1割弱となっている。 ・保護者は学校に対して協力的で、PTA活動も活発である。また、地域学校協働本部の活動がコーディネーターを中心に活発に行われている。コミュニティ・スクール委員会を中心に地域連携を広げていきたい。 <p>○課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①特別支援教育の理解促進と通級・通常級の連携強化 ②主体性のある生徒を育成する授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・「デジタルを活用したこれからの学び」の研究 ・自立した学習者（自己決定する授業）の育成 ③地域資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学との連携（桐朋音楽大学、白百合女子大学） ・コミュニティ・スクールによる「地域熟議」の実施

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<p>基本的な言語知識の定着を図り、相手の理解を考慮した表現力を身につけさせる。また主体的な態度での意見交流と学び合いの姿勢を育む。</p> <p>具体例と根拠を明確に文章化したり、説明したりする活動を通し、思考力や表現力、豊かな言語能力を伸長させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストなどを随時行い、基礎知識の定着を図る。 ・発問に対する意見や考えを他者と共有する学び合いを通して、理解を深める力を身に付けさせる。 ・小集団での意見交流と発表機会を多く設定し、主体的な表現活動につなげる。さらに文章化する力を深める。 ・効果的な指導方法としてICT機器を用いた個別最適な学びに取り組む。
社会	<p>よりよい社会の形成に向けた社会的な基礎・基本となる知識技能を育み、グローバル化する国際社会で生きていく主体的な態度を養う。また国際社会の抱える課題や様々な社会的な事象について社会的な見方・考え方を働かせ、考察し、説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会的事象や史資料の読解、考察の活動や、生徒同士の教え合い、学び合いの活動を充実させることで、社会科の基礎・基本となる知識技能を定着させる。 ・ICT機器を活用して生徒の主体性を高める工夫や対話的活動を円滑に行うことで生徒の社会的な見方・考え方を養う（一人一台端末を活用した対話的活動、パワーポイントを用いた解説等） ・単元での学びの連続性を意識させる指導を行うとともに、単元を貫く問いを設定して、様々な社会的事象や国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察する機会を設け、表現する活動を行う。
数学	<p>数学的に考えることのよさ(処理、実用性など)を実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する、または活用しようとする主体的な態度を育成する。その上で、日常の事象や数学の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察し、説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に利用する。(ミライシードでの演習、ゲーグルサイトを利用した家庭学習の推進、パワーポイントでの解説等) ・授業の構造化を進め、課題解決までの見通しがもてる授業を行う。また、授業での課題や発問を精査しわかる授業を実践する。 ・新たな課題の発見を促すための、授業の振り返りを充実させる。(振り返りシートを活用、発表等) ・実験などを通して、身の回りの事象を数学的にとらえる力を身に付けさせる。 ・『デジこれ』の授業改善の取り組みを通して、自ら学び方を選択し、学習内容を理解する活動を通して、生徒の主体性を伸ばす。
理科	<p>目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育成する。また、学びのプロセスを自ら決定し学習することで、課題解決能力を育成する。得られた情報をまとめ、自分の考えを表現する力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやレポートなどで考察やまとめを言語化し、口頭や文章等で発表する機会を多く設ける。 ・3年間の理科の学習のつながりや他教科との関連、学習内容が実生活で生かされていることなどに関連させながら考え、理解を深める。 ・ICT機器を活用し、視覚聴覚的にもイメージしやすい授業を行い、意欲関心を高める。 ・『デジこれ』の授業改善の取り組みを通して、自ら学び方を選択し、学習内容を理解する活動を通して、生徒の主体性を伸ばす。

<p>音楽</p>	<p>心理的安全性に配慮し、話し合いやグループ活動を取り入れ、主体的な態度を育成する。音楽がもたらすイメージと音楽を形づくっている要素の関わりを説明する活動を通し、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な視点で生徒が楽曲を学習できるよう、発問や授業展開を工夫する。 ・振り返りを提出することで、できたこと・できなかったこと・できるようになるための方法を考え、粘り強く学習に取り組む。
<p>美術</p>	<p>自ら考え行動し、思いやりのある心豊かな生徒の育成を目指し、自己有用感や思考力を高められるよう授業改善を行う。社会との結び付きなどから、美術への興味・関心を引き出し、豊かな感性・個性をいかして、意図に応じて表現できる生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術への関心と創造性(想像力)を高めるため、身の回りの美術や有名な作品を鑑賞し、感じ取ったことや知識を制作にいかす。 ・毎題材、必ず作品鑑賞を行い、表現の工夫を感じ取り、互いの表現を認め合う。 ・毎時間、振り返りを行い、生徒自ら次回の制作目標を設定することで、自ら見直しをもって制作できる。 ・ICTを活用し、机間指導等で個別最適な指導を行う。
<p>保健体育</p>	<p>基礎的な技能の定着を図ること、授業の目的を毎時間ごとに説明し、苦手な生徒も安心して授業に取り組める環境をつくる。生徒が主体的に活動し、仲間との学び合いの中で、生徒相互に意見交換する活動を通して、協動的な学びを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用により、自他の動きや自己の記録、またチーム競技において作戦や戦術等の分析をしたり、説明したりする活動を取り入れる。 ・種目ごとにペアワークやグループワークを設定して、生徒同士で質問やアドバイスをしあうことで、生徒全員の意欲や技能の向上を目指す。
<p>技術・家庭</p>	<p><技術> 心理的安全性が高い授業を進めるため、対話的で深い学びや協働的活動を取り入れた実習を展開し、自ら考え積極的に行動できる生徒を育成する。課題解決能力を育む観点から、生徒の個性を引き出し、材料と加工の分野に取り組みさせる。</p> <p><家庭> 生活の中で、自分の健康を意識し、知識や技能を身に付けながら、共生社会や持続可能な社会のために、生徒が、主体的に何ができるか考え、実践できる力を身につけさせる。</p>	<p><技術></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒端末を活用し、授業内でプログラミング等の学習を『デジこれ』の授業改善を導入しレポート作成などに結び付ける。 ・ICT機器を適切に活用し、技能やそこに至る過程を重視し主体的に課題を解決できるような実習を行う。 <p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを意識し、見やすく、わかりやすい提示をする。(毎時間の学習目標や図、作品段階見本等) ・小グループ活動を多く取り入れ、意見交換をしながら多様な考えがあることを学ぶ。実習では互いに教え合い、協働する姿勢を養う。 ・作品作りでは、見直しをもって作業に取り組めるように、ICT機器等を活用し、1時間の行程がわかるように提示する。
<p>外国語 (英語)</p>	<p>心理的安全性に満ちた授業を推進し、間違いを恐れず積極的に英語を用いて他者とコミュニケーションを図ろうとする主体的な態度を養う。 ペアやグループでの話し合い活動や協働学習を通し、外国の文化をはじめ、さまざまな情報や考えなどを英語で理解するとともに、自分の考え・意見などを英語で伝える基礎力の定着をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協動的な学びの充実のために、ICT機器を積極的に利用する。(デジタル教科書、単語や英文の反復練習用のツール、ミライシード等を活用しての課題提出、発表活動、問題演習等) ・生徒たちが、主体的、対話的で深い学びが実現できるよう、ペアやグループで活動を充実させるとともに、歌、ゲーム、クイズ形式、問題解決型の学習等、様々な形態の活動を授業に取り入れる。 ・生徒同士が認め合ったりほめ合ったりする場面を設定し、協働して学習が進められる工夫をする。
<p>道徳科</p>	<p>思いやりがあり、心豊かな生徒を育成する。道徳的活動を通して、主体的に自己を見つめる態度を養う。また、自分の考えや他者の考えを、話し合いやグループ活動を通じて多面的・多角的に考え、よりよく生きるための道徳性を養う。自分の考えやグループの考えを発表する活動を通して、表現力や言語能力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の視点で、心理的安全性に満ちた授業を行う。(目標の表記、授業の流れの説明、話し合い活動の工夫、ICT活用方法の工夫等) ・多種・多様な教材を通して、人としての生き方を深く考えさせる。 ・小グループでの話し合いを通して意見を出しやすい環境を作り、自分の意見だけでなく他者の意見を共有できるようにする。 ・毎時間、また学期ごとの振り返りシートの記入により、自らの成長を実感し意欲の向上につなげる。